

vol. 2256

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL/(097)556-2838 FAX/(097)556-8998 MAIL/ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】佐伯印刷(株) 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容(掲載順)

- 地公労人事委員会事務局交渉
7月15日(木) 市町村会館6階 大分県人事委員会事務局
- 県議を交えた単組・専門部の課題に関する学習会
7月30日(金) 教育会館201研修室
- 第28回九協高校教育シンポジウム
8月1日(日)～8月2日(月) 九州ろうきん宮崎県本部会議室

地公労人事委員会事務局交渉

と き：7月15日(木) ところ：市町村会館6階 大分県人事委員会事務局

4月26日に行った地公労の人事委員会申し入れに基づき、7月15日に交渉実施しました。高教組からは委員長、副委員長、書記長の3人が参加し、「月45時間の上限規制の遵守」、「育児・介護休暇が取得しやすい職場づくり」、「新規事業には業務量の把握と新たに人員を配置すること」等について訴えた。

2021年度 申入書の重点

- (1)民調の内容及び時期確認
- (2)公民較差及びこれまでの県当局との交渉結果等を踏まえた対応
 - ①公民較差の完全解消(水準調整給料表の勧告による較差解消)。
 - ②住居手当について大分県の実情を踏まえ、減額となる勧告をしないこと。
 - ③各職給料表の継ぎ足し。
- (3)小規模企業調査結果を勧告に反映させないこと。
- (4)実効のある「働き方改革」の推進と管理監督機関としての責務を果たすこと。
- (5)育児・介護休暇を取得しやすい環境整備。
- (6)定年延長に伴い、賃金水準の引き下げとならないこと。
- (7)秋の勧告にむけて、地公労と今後も話し合いの場をもつこと。

県議を交えた単組・専門部の課題に関する学習会

と き：7月30日(金) ところ：教育会館201研修室

当初予算編成、また9月議会を前に、高教組が抱える課題について尾島県議を交えて学習会を開催しました。

学習会では、主に各単組・専門部における課題について、今年度の単組・専門部交渉における要求項目を中心に報告、ならびに意見交換を行いました。今回も多くの支部長にも参加をしていただき、各単組・専門部の課題を共有することができ、単組・専門部交渉に向けて心あわせをすることができました。

今後、議会で追及すべきものについては、尾島県議と協力し、定例会の中で質問項目としてとりあげるなどしながら、要求の実現にむけた具体的なとりくみを行います。

第28回九協高校教育シンポジウム

と き：8月1日(日)～2日(月) ところ：九州ろうきん宮崎県本部会議室

昨年度、コロナウイルス感染拡大のため中止した九協高校教育シンポジウムは、今年は、開催県の宮崎高教組の努力によって、8月1日(日)～2日(月)に九州ろうきん宮崎県本部会議室で開催することができました。大分高教組からは、リポーターとして山田憲昭さん(玖珠美山分会)をはじめ6人が参加しました。山田さんのレポート「主権者教育推進計画について」は、前任校の日田三隈高校で主権者教育にとりくんだもので、19年度の全国教研でも発表した内容ですが、その後のとりくみも踏まえ分科会での議論を深めることができました。3つの分科会では、大分と同様に県庁所在地の学校に生徒が集中し多くの学校が定員割れしている状況の分析や、PTA活動と教職員の関わり、また各県の図書館教育の状況などが討論されました。今

回のシンポジウムは、感染症対策のため全体交流会を中止しましたが、20年度に九協の各種集会が中止された経緯から、参加者の多くが対面参加の集会の意義を再確認できた集会となりました。次回は大分開催です。来年8月の感染症の状況は全く予測できませんが、開催方法に制約が加わる可能性も高い中、開催県として可能な限り多数の参加で集会の成功に努力しましょう。

九協高校教育シンポジウム参加者感想

○第1分散会 松本幸夫(大分商業) 初日1つ目は、宮崎の松元先生の高校入試に自己推薦制が導入された報告。現場には知らせず突然新聞発表で行われた。背景には中学校で推薦する生徒の選別が難しいことが考えられるとのこと。部活でも選手の選考に保護者がクレーム入れる時代だからなあ。いずれ大分でも入って来るのだろうか? 2つ目は熊本 of 青木先生の少子化の中で地域の学校をどう考えていくかの報告。九州を中心に他県についても調べられており、大分と同じように全県一区だと定員に満たない学校が多く出るようだ。また過疎地の学校で中心部の高校の遠隔授業が受けられる試みについては、それで存続する過疎地の学校は学校と呼べるのだろうかと思った。2日目は福岡の高山先生の抗原検査を学校でやらされそうになった報告。医療行為だからやっちゃいけないことだけど、戦時中もそうだったと思うが非常時(コロナ禍)ではルールや常識が後回しにされるんだなと感じた。これはおかしいと感じる判断力と、ノーと言える勇気を普段から備えておく必要があると感じた。

○第1分散会 中野幸弘(中津北) 九州の仲間たちとレポート検討を対面で行うのは久しぶりだ。行動が制限される現状を受け止めてはいるが、“おかしい”と思う気持ちに制限はかけてはいけなく強く思う時間になった。高校生になるための入試は、その子にとって大切なものであるからこそ、現在の制度の検証と改善が必要である。当局に求めている他県のとりくみを知り、自分にできることは何かを考えた。“新型コロナウイルス感染予防”という理由で指示されることについて、その背景を知ることや教職員がやるべきことか、子どもたちに対して必要な配慮は何かなど、しっかり考えていくことが大切だと感じた。レポート検討をとおして、現場からしっかり声を上げていく重要性を再認識した。

○第2分散会 山田憲昭(玖珠美山) 2人のリポーターを含めて、10人の参加でした。私の「主権者教育を再考～日田三隈高校の主権者教育推進計画について～」のレポートに対して、他県での主権者教育の取り扱い方を示していただいた。そのことで2016年からの4年間で三隈高校で活動してきたことの意味を再度考えることができた。推進計画にある、全職員、全保護者、地域社会の人々の協力を得ることをめざして、広げることは大切であろう。そして、私自身の日頃の授業で小さな実践を重ねていき、民主主義を支える善き市民を育てる社会科教員でありたいと感じた。

○第3分散会 深蔵剛(安心院) 他県の発表を聞き、感じたのは非正規学校司書の「自己肯定感の低さ」でした。子どもだけでなく、大人である自分たちも自己肯定感を高め、維持する事が困難な時代になってきていると感じます。急速に変化する社会の中で顕在化する様々な問題に立ち向かうには、活気のある新しい学校図書館の再構築が必要です。そのためには、このような対話と相互理解を育む活動によって、自分たちの「自己肯定感を高める」事が重要だと感じました。

